



編集発行 高等委員会
大館鳳鳴高校図書館

三十年余り続いた平成の時代が幕を閉じ、新たに令和の時代がスタートした。

鳳鳴生が注目する 令和のニュース

平成は「戦争がなく平和な時代」と言われているが、令和はどのような時代と becoming いくのか。また、令和になってからの変化について、鳳鳴生はどのように捉えているのだろうか。

令和についてのアンケート

全校生徒を対象に令和についてのアンケートを行った。「年号が令和に変わって以降特に関心のあるニュース」と「そのニュースを見てどう思ったか」の二つを答えてもらった。その結果、一番関心が高かったのは「京都アニメーション放火事件」、次は「天皇即位」だった。今回は鳳鳴生の関心が高かったその二つについて調査し、まとめた。

京都アニメーション

京都府宇治市に本社を置く一九八一年創業のアニメ制作会社で同市と京都市にスタジオを構える。「映画 聲の形」など劇場公開作品も多く手がける。若者の日常生活のリアルな描写に加え、実写のような美しい背景といった質の高い作画技術などで、国内外のアニメファンの人気が高い。七月十八日(木)、男が叫びながらビルに入り、入り口付近でガソリンとみられる液体をまき、火を放つ。建物内には従業員ら七十三名がいた。この事件の犠牲者は三十六名にも及ぶ。

京都アニメーション放火事件についての鳳鳴生の反応は「事実が疑わしい話が飛び交っていて、信憑性がなく誤解が生まれている。(二年C組)」「マスコミの被害者の実名報道を疑問に思った。(三年B組)」

「身勝手な理由で命を奪うのは間違っている。(二年D組)」というものだった。犯人は青葉真司容疑者(四一歳)。過去に逮捕歴があり、精神疾患も疑われていた。事件の動機は、「小説を盗まれたので火をつけた」自分の作品を盗作されたと話しているが、京都アニメーション側は類似のものはないと話している。また、京アニでの勤務経験はなく、接点は見つからない。ネット上では、事実とは無関係で軽率な発言によって犯人像が作られていた。これは私達も意識せずに行っている可能性もあるので、自分の発言や書き込みには注意する必要がある。

天皇即位

一九八九年一月八日に始まり、三十年余り続いた「平成」が、二〇一九年五月一日に「令和」に改元された。新天皇陛下が五月一日午前〇時に皇太子から即位された。天皇の逝去によらない代替わりは、一八一七年以来、二〇二年ぶりである。

五月一日の午前中には、「剣璽等承継の儀」、「即位後朝見の儀」が行われた。天皇は「憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての義務を果たす」と最初のお言葉を述べられた。天皇即位に対する鳳鳴生の考えは次の通りだ。「生前退位は天皇に負担がかからなくて良いと思った。(一年C組)」

「歴史に残る瞬間を見ることのできてとても感動した。(三年E組)」このニュースに対する否定的な意見は少なく、肯定的な意見が多い印象を受ける。日本国民は我々の象徴である天皇を大事に思っているということを感じさせられた。二〇二年ぶりの生前退位という変化は良い方向に繋がっていくと思う。

令和になったと 感じることに

上記二つの質問の他に、「令和になったと感じることも答えてもらった。多く目についたのは「R1」という表記をよく見るようになった」ということ。さすが

鳳鳴生とでも言うべきか、「アスタの表紙で」との回答が多かった。次に、「メディアで平成最後の〇〇や令和最初の〇〇をよく見る」ということだ。現上皇陛下が生前退位ということで、改元前から改元に向けた準備が進められていた今回、何でもないようなことでも、最後の、最初の、と言われる

ばそれだけで特別感が漂う。その特別感を利用した経済効果も大きかったのではないかな。今回のアンケートから、人生で初めての改元の瞬間に、皆それぞれ感じるものがあったように思った。これからの時代の変化に敏感になり、そして柔軟に対応して欲しいと思う。

☆鳳鳴生に配付したアンケートの内容☆

- 1、年号が令和に変わってから今まで、特に関心のあるニュースを下から選び、□に丸を入れてください。
□天皇即位 (5/1) □大津園児死傷交通事故 (5/8)
□財布を紛失した高校生が恩人との再会 (5/21)
□山里亮太さんと蒼井優さんの結婚 (6/5)
□芸人 宮迫ら闇営業発覚 (6/6)
□京都アニメーション放火事件 (7/18)
□その他[自由記述]
- 2、1で選んだニュースを見てどう思いましたか。[自由記述]
- 3、『令和』になったな、時代が変わったなと感じることがあれば教えてください。[自由記述]

図書委員会からアンケートのお願い

図書館報に掲載する、令和に関するニュースについて、全校にアンケートを行います。ご協力をお願いします。

- 1、年号が令和に変わってから今まで、特に関心のあるニュースを下から選び、□に丸を入れて下さい。
□天皇即位 (5/1) □大津園児死傷交通事故 (5/8)
□財布を紛失した高校生が恩人との再会 (5/21)
□山里亮太さんと蒼井優さんの結婚 (6/5)
□芸人 宮迫ら闇営業発覚 (6/6)
□京都アニメーション放火事件 (7/18)
□その他 []
 - 2、1で選んだニュースを見てどう思いましたか。 []
 - 3、『令和』になったな、時代が変わったなと感じることがあれば教えてください。 []
- 今日(5/24)の放課後までにクラスの図書委員へ提出して下さい。

→全校に配付したアンケート用紙



アンパンマンと正義

今年二〇一九年は絵本『アンパンマン』の産みの親やなせたかしの生誕百周年の年である。

これを機に、やなせたかしがアンパンマンという作品に込めた思いについて、特に「正義」というテーマに焦点を絞ってまとめる。

アンパンマンとは
アンパンマンはやなせたかしによる一連の絵本シリーズである。登場キャラクター数は二〇〇〇年に一七六八体でギネス世界記録に認定されており、現在は二千を超えている。

テレビアニメは一九八八年に始まり、現在でもたくさんの人に親しまれている。

アンパンマンの産みの親・やなせたかし
やなせたかしは、日本の漫画家、絵本作家、詩人である。元は陸軍軍人であった。

東京都北豊島郡滝野川町(現・東京都北区)で生まれ、一九四一年七月に陸軍に入隊した。アンパンマンの大ヒットをうけ、一九九〇年以降はたくさんの賞を受賞した。

この作品はやなせたかしが戦後の深刻な食糧問題をうけて書かれたものである。そのため彼は、「人生で一番つらいことは食べられないことである」という考えを持っている。

アンパンマンの原点
アンパンマンの誕生は、フレール館から一九七六年に出版された絵本『あんぱんまん』である。

そこに描かれているアンパンマンは我々が知っているようなかわいらしいものではなく、顔を食べさせて、顔がなくなっただま空を飛んでいるような、幼児向けとは思えないものである。



やなせたかしはこのキャラクターに「スーパーマンはどれだけ乱闘しても衣服が破れないし汚れない。誰のために戦っているのか分からない。正義というのは格好のいいものではなく、執行には自らも深く傷つかななくてはならないのだ」という思いを込めていた。

つまり、やなせたかしにとつての本当の正義とは、決してきれいなものではなく、代償の大きいものなのだ。

一番つらいのは食べられないこと
アンパンマンの最大の特徴は「他人に自らの顔であるパンを分け与える」ということである。バイキンマンという敵と戦うシーンももちろん重要なのだが、やはりストーリーの根幹は、空腹で困っている人にパンを分け与えるシーンである。

他のヒーローと呼ばれるキャラクター達は、自らの正義を掲げ、敵対しているものを排除し、これを「正義」としての正義と言えるだろうか。やなせたかしは、このよう

な格好のいい正義を見かけの正義と考へ、「人生で一番つらいことは食べられないことであり、我々は見かけの正義ではなく、飢えに苦しむ人々を助けるという本当の正義のために戦うべきなのだ」と考えたのである。

やなせたかしは、「人生で一番つらいことは食べられないこと」という考えのもと、本当の正義とは、「飢餓をなくすこと」であるという考えを持っているのだ。

なんのために生まれて 何を
やなせたかしの考へる正義とは、代償が大きく、敵を撲滅するのではなく、飢餓という万民にとって憎むべきものを撲滅するものであるということだった。彼は、戦争という壮絶な経験を通して、彼だけの「正義」という考えを養った。

アンパンマンのテーマソングであるアンパンマンのマーチには「なんのために生まれて 何をして生きるのか」という歌詞がある。これは、彼が自らにとつての正義という考え方を経験から養ったように、きっと「なんのために生まれて 何をして生きるのか」の答えを見つけたのだ。そして、後世に生きる我々へのメッセージとして、「人生の経験をつんで、自分だけの正義を見つかるべきだ。それが人生だ」とこの歌詞に思いを込めて残したのではないだろうか。彼の生誕百周年である今年、

彼が後世に残した思いを受け継ぎ、我々も今、考へてみるべきではないだろうか。「なんのために生まれて 何をして生きるのか」

参考文献
『わたし正義について語るなら』
やなせたかし(ポプラ社)
『アンパンマンの遺書』
やなせたかし(岩波書店)
『人生なんて夢だけ』
やなせたかし(フレール館)

新しい時代に新しい本を読もう！

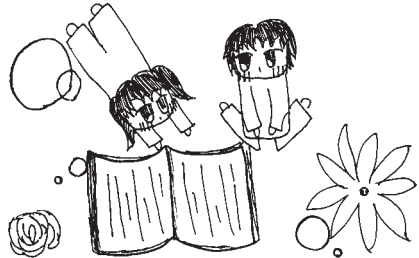
令和発売の本

『希望の糸』

東野圭吾(講談社)

物語は災害で二人の子どもを失った夫婦の苦悩から始まる。悲劇から数年後、喫茶店を営む女性が刺殺される事件が発生。事件の真相、背景を巡り、容疑者として捜査にあたる若き刑事それぞれの苦悩が描かれている。

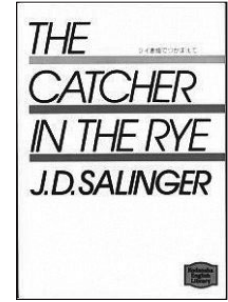
「親の心子知らず」というが、その逆もまた然り。家族だから甘えてしまつて伝えられない言葉や、親子だからこそ隠しておきたい真実があることは、誰しも経験したことがあるのではないだろうか。すべての父、母、子どもに必ず共感してもらえぬ感情がこの作品にはある。僅かな描写も見逃してはいけない。きつとあらゆる年代の人の心を掴んで離さないだろう。誰が何をしてどんなことを思っているのかは、ページをめくってみなければならぬ。



鳳鳴の先生がおすすめる 高校生に 読んでほしい本

鳳鳴高校は勉強などで忙しく、読書をする時間はほとんどない。高校に入学してから読書をする習慣がなくなつた人も多いのではないだろうか。そこで今回は、今年度赴任された、我々生徒と年齢が近い堤薫先生、成田海先生、石田貴志先生に、「おすすめる本」「読んでほしい本」「印象に残っているところ」「本から学んだこと」という四つの観点からインタビューに臨んだ。

急なお願ひにもかかわらず、快くインタビューを引き受けてくださった先生方に、この場を借りて図書委員一同、厚く御礼申し上げます。



堤先生のおすすめるの本は『ライ麦畑でつまえて』。作者はアメリカのJ.D.サルンジャー。先生曰く、ぜひ、高校生に読んでほしい本だそう。好きなシーンはたくさんありすぎるそう。聞くと、「好きなところに付箋をはいたら、ほぼ全てのページが付箋だらけになってしまった」とおっしゃっていた。そのなかでも特に印象に残っていることをうかがったところ、「独特の比喩表現がとても面白く、気に入っている」そう。先生がこの本と出会ったのは、思春期のいろいろなことで悩んでいた頃だそう。「高校生のうちに読んでほしい」というのも、ここからきているのではないだろうか。堤先生から高校生へ。「大人になつてからおすすめるの本として紹介するには少し恥ずかしい本です。ぜひ高校生である今のうちに読んで、大人になったら、この本から卒業しててください」とのことだった。



成田先生のおすすめるの本は『風が強く吹いている』。作者は三浦しをん。先生は当時、『一瞬の風になれ』(佐藤多佳子著)という陸上の短距離系の作品を読み、次は長距離・駅伝系を読みたいと思い探したところ、この本を見つけたそう。

印象に残っているシーンは、「メンバー十人中八人が素人で、中でも特に運動ができなかった子が一区を走り終えたあと、付き添いに來ていたキャプテンが声をかけるところ」だそう。

学んだことは、「協力することは大事だが、自分を犠牲にするのではなく、時にはぶつかり合いながら、チーム全員が最大限に力を発揮できるようにすることがチームワークにつながるということ」と述べていた。



石田先生のおすすめるの本は『生きること学ぶこと』。作者は広中平祐。「大学での勉強や生活に行き詰まっているいるな本を読んでいく中で出会った本」だそう。

印象に残っている箇所や、その本から学んだことについて尋ねると、「『人はなぜ勉強しなければならないのか』という質問の答えについて考察している箇所や、『素心』について述べている箇所です。学んだことは、研究や研究者とはどのようなものか、日本と欧米との考え方や文化の違い、何か物事を創造する楽しさ、そして創造する上で大切なことは何か、ということを通して、これは日常生活の中にも通ずることだと思えます。『人はなぜ学ぶのか』を考えるきっかけになりました」とのことだった。



『偽りの私達』
日部星花 (宝島社)

『このミステリーがすごい!!』の隠し玉として七月四日にデビューした現役女子高生の著書を紹介したい。

高校二年生の土井修治が綴った手記には、七月十七日から七月八日に時間が巻き戻っているという信じがたい現象が書かれていた。七月十七日に階段から落ちて死んだ少女・渡辺百香を救うために、時間が巻き戻っているのでは、と考えた土井。なぜ彼女が死ぬことになったのか探りを入れ出すが……。

現役女子高生ならではのリアリティ溢れる描写に加え、タイムリープというSF設定があるため、非日常を味わうことができる。結末を迎え、今までの謎がすべてつながったとき、爽快感を感じるとともに背筋が凍るような思いをした。

著者の仕掛ける紙上のマジックを、あなたの目でぜひ見抜いてほしい。

『カザアナ』
森絵都 (朝日新聞出版)

東京五輪後の、観光革命が起きた日本では空前のいにしえブームが巻き起こり、日本独自の文化や伝統を重んじることになった。国の規制が厳しく、監視ドローンが至るところに飛び生きている社会で、主人公・里宇は弟の早久や母の由河とたくましく暮らしていた。物語は、里宇一家が、石や虫などの自然と通じる不思議な力「カザアナ」を持つ者たちと出会うことで動き出していく。

今、日本で起こっている環境破壊や政府寄りの偏った報道など、それらの問題に通ずる部分があり、また自然愛にあふれた物語にもなっている。

タイトル通り、日本の危機を思わせる深刻な問題の多くに風穴を開けていく。



鳳鳴図書館委員会活動報告

図書委員会の活動と行事

図書委員会では、本の貸し出し、返却をメインとしたカウンター業務や、広報誌の作成を当番制で行っている。また、POP作りなども普段の活動の一つである。

加えて、図書委員会では、毎年多くの行事に参加している。六月、毎年恒例となっている古本市では今年も多くの人が集まった。また、八月二日(金)に県立図書館で行われた学校図書職員委員会には、一年生が二名出席し、他校の図書委員と交流した。十月十二日(土)のビブリオバトルでは、一年生一名、二年生一名が参加した。他にも多くの行事があるが、今回はその中から二つ紹介していく。ぜひ、みなさんに図書委員会の活動を知ってもらいたい。

星空図書館ボランティア

七月二十七日(土)大館市立栗盛記念図書館で行われた

星空図書館ボランティアに三人の生徒が参加した。他校からも六、七人の生徒が参加し、プラネタリウムの設置、星座

早見表作成の手伝い、絵本読み聞かせなど様々なことを体験した。小学生や保育園児が

楽しみ、かつ絵本に込められた意味などを考える本選びがとても難しかったそうだ。

このボランティアに参加した生徒の一人は、「小さい子を相手とする職業は大変だということが分かった」と話していた。

今回の星空図書館ボランティアに参加した生徒は「普段あまり体験することがないことを経験できたと思う。このボランティアを機に読書や他のボランティアにも積極的に関わっていききたい」と述べた。

受け継がれていく読書会

九月六日(金)、令和になつてから初の読書会が大館国際情報学院の図書室で行われた。

まさに新たな時代の一ページがまた一つここに刻まれた瞬間である。では改めて、読書会とはどのようなものなのか紹介したい。その会は、鳳鳴

国情、桂桜の三校合同で行われる。課題図書をあらかじめ読み、その図書について気になったことや掘り下げていき

たいことを各校で事前に出してもらい、それについて集まって議論し合っていくというのが基本スタイルである。

このようにして読書会が始まったが、一同がいささか緊張しているのが伝わってきた。だが話し合いが始まるとその緊張は消え、活発な意見交換

がなされ、あつという間に時間が過ぎていくのを感じた。本当に楽しい時間であった。そして最後に次の会場を決めて、その日は終了した。

かくして今回も大成功に終わった読書会。次の課題図書は何になるのかはわからない。だが確実に意見が活発に飛び交うことだろう。そして令和

の時代にも、読書会が色褪せず、途切れず続いていくことを願っている。

図書委員会の活動を通じて

図書委員会の活動を通じて、普段は味わうことのできないような本の良さ、本に携わる

素晴らしさを知ることができた。鳳鳴の図書委員は、古本市やボランティアなどの活動

が満載であった。文化祭と重なり、忙しい時期もあったが、委員同士で協力し、助け合うことができたため、協調性が高まったと思う。

このように図書委員会の活動は、いつもとはまた別の視点で本と人とを関わらせることができる。だから、本が好きな人はさらに、そうでない人も新しく本に関して興味を持つことができた。



↑読書会参加者で集合写真

鳳鳴図書館利用状況

図書館の利用者数は前年度に比べ二百人ほど多くなっている。しかし先日の委員会で「この人数が来年も続くか分からないのでもっと明確な努力が必要だ」という意見もあった。

続いて貸出冊数を見ていくと、前年よりも貸出された冊数は増えているように感じるが、一人当たりの貸出冊数で考えると、大きく数を減らしてしまう。これには、図書館に本を借りに来る人の固定化が考えられる。

今後、図書館が躍進するために、さらなる進化を遂げる必要性がありそうだ。

貸出利用者ベスト (H31. 4. 1~R1. 10. 31)

順位	冊数	年・組	氏名
1	36	1G	成田 愛子
2	26	3H	大塚 元子
2	26	1A	市川 楓子
3	25	3B	大森 開登
4	23	2B	春日 玲星
5	17	2B	遠藤 結愛

